

# 新潟大学皮膚科特別セミナー

日時:2025年12月10日(水)18:00~  
\*Zoomにて開催します。

## 生体防御システムによる皮膚炎の 制御の解明

筑波大学医学医療系皮膚科  
講師 小川 達也 先生

KEAP1/NRF2経路は酸化ストレスや親電子性物質に対する生体防御応答を担う。KEAP1は転写因子NRF2の抑制因子であり、定常状態でNRF2を細胞質内に留めて遺伝子発現を抑制する。一方、細胞が環境由来のストレスに曝露されるとKEAP1がセンサーとして感知し、抑制を解除されたNRF2は核内に移行し、生体防御遺伝子群の発現を促進させる。KEAP1/NRF2経路の機能異常は乾癬、アトピー性皮膚炎など様々な皮膚疾患の発症に関わり、皮膚の恒常性維持に重要である。

1. Ogawa T, et al. Nrf2 regulates epidermal keratinization under psoriatic skin inflammation. *Am J Pathol* 2020; 190: 577-585.
2. Ogawa T, et al. NRF2 Augments Epidermal Antioxidant Defenses and Promotes Atopy. *J Immunol* 2020; 205:907-914.